

6年 道徳学習指導案

場所 6年 組教室
授業者 田村 亮

1. 主題構成表

主題名 ほんとうの仲間

資料名 「歩道橋の二人」

<p>内容項目 2 - (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力する。</p>	<p>価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・集団で社会生活を営んでいくためには、お互いに信頼しあうことが必要である。自分は相手のことを分かってあげていると思っても、実はそうではないことが多い。自分の欲望や立場から離れ、相手の立場に立って考える心を育てることによって、その場その場の個人的な利害感情で相手と結びつくのではなく、信頼しあえる仲間として友情の気持ちも育っていくことと考えられる。・ほんとうの仲間とは、自分の思いを押し付けることではない。相手のためを思っていることが実はそうではない場合もある。相手が本当に望んでいることは何かがわかり、その思いに答えることができたときこそほんとうの仲間といえる。	<p>資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・4年生のとき、足の不自由な竹田君が遠足に参加すると聞いて、クラスのみんなは驚きの声を上げる。クラスのみんなは転校してきた竹田君に対して深く考えず判断したり発言したりしている。同じように遠足に参加することは当たり前ではなかった。・「竹田君はバギーに乗れるからいいなあ。」といわれたときに涙ぐんだ武田君の姿から、竹田君の気持ちについて田口さん達は考えられるようになったと思っていた。・「がんばっているわねえ。」としかいえなかった田口さんの姿から、分かっているつもりでいたがそれに応えるために何もしていない自分に気づき、本当の仲間とはどんな関係を築いていくことなのか、深く考えさせたい。
--	---	--

ねらい
歩道橋で階段登りの練習をする2人の友達に出会い、今までの自分の行動や心情を振り返る主人公の気持ちを考えさせることを通して、友達の気持ちや立場を思い考えて行動すること、またその友人の気持ちに誠実に答えることのできる仲間になろうとする心情を深めることができる。

展開の構想

- ・自分にとって仲間とはどういう人のことを指すのかを考える。
- ・遠足の参加に驚くクラスのみんなの気持ちを素直に考えさせ、本音を出せるようにする。
- ・単に体が不自由だから優しくしなくてはいいのではなく、同じ人間、仲間であることが前提にあることに気づかせる。
- ・本当の仲間とはどういうことかを考えさせる。

基本発問（中心発問）

4年生のとき竹田君が遠足に行く聞いて田口さんはどう思ったか。

「竹田君はバギーに乗れるからいいなあ。」と言われ涙ぐむ竹田君を見て、田口さんはどう思ったか。

田口さんが階段を上る練習をしている二人に「頑張っているわねえ」としかいえなかったのはどうしてか。

真の友情を育てていくためにはどんな気持ちを持って行動することが大切か。

2. 授業の展開

段階	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	支援・留意点
つかむ	<p>(1) 本時の価値の方向付けをする。 自分にとってどんな人が仲間だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに助けてくれる ・気が合って一緒にいて楽しい ・一緒に喜んだり悲しんだりしてくれる ・自分の悪いところを注意してくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての意見を共感的に受け止める。
深める	<p>(2) 主人公の気持ちを読み取る。 資料「歩道橋の二人」を読んで感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹田君は不自由な体で頑張っている。 ・竹田君の練習を手伝う島君は友達思い。 ・冗談でも言っているいいことと悪いことがある。 <p>4年生のとき、足の不自由な竹田君が遠足に参加すると聞いたとき、田口さんはどう思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足が不自由だから無理だ。 ・みんなと一緒にには行けないだろう。 ・クラスみんなで行けるから嬉しい。 ・何とか最後まで一緒に行けるといいな。 <p>「竹田君はバギーに乗れるからいいなあ。」といわれ体を震わせ涙ぐんだ竹田君を見て、田口さんはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひどいことを言うなあ。 ・頑張っている竹田君を見たらそんなことは言えないはず。 ・本当は誰の助けも借りずに一人の力で登りたい。 <p>田口さんが、階段を登る練習をしている二人に「がんばっているわねえ。」としかいえなかったのはどうしてでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人の真剣な様子に感動したから。 ・二人の友情に感動したから。 ・島君と比べて、自分が恥ずかしくなった。 ・自分は竹田君の本当の気持ちをわかってあげていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バギーについてどういうものか押さえる。 ・共感的に受け止める <p>・転校してまだ間もないため武田君のことを良く知らないことも認め、竹田君が参加することによって状況がどう変わるかを想像させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事態に対する認識の軽さがこうした冗談となって口にてたことを分らせる。 ・多様な考え方が出るよう支援する。 <p>補助発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「竹田君はほんとうはどうやって登りたかったんだろうか。」 ・「この遠足の日以来、みんなは、今までよりも少し、竹田君の気持ちを考えられるようになったと、田口さんは思っていた。」揭示。 ・竹田君の気持ち揭示。 <ul style="list-style-type: none"> ・遠足の出来事をどれだけ真剣に受け止めていたか、竹田君の気持ちをどれだけ理解していたか、現在の自分を振り返って反省している田口さんの思いを充分捉えさせる。 ・竹田君の気持ちを受け止め支えている島君の姿に仲間の価値を見いだせるようにする。 ・シートに書かせる。
見つける	<p>(3) 自分の生活で考える。 ほんとうの仲間とはどのような関係なのだろうか。今日の授業を通して考えてみよう。</p> <p>(4) 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりを振り返り、自分の主張が優先されてばかりいなかったか、自分はどれだけ相手のことを理解して接することができていたか考えさせる。本当の仲間とは、相手の気持ちを大切に、その気持ちに答えることから生まれる信頼関係や友情の上に成り立っていることに気づかせる。

